

千葉県商店街連合会

副会長 梶 純造



【千葉県商店街連合会の沿革】

千葉県商店街連合会（渡辺祥会長）は昭和47年4月に商店街の組織化を柱とした商業の近代化施策の普及を目的に、県内の市商連の連合体として発足した。以来今まで、がんばる商店街のために、街づくりや地域の活性化に貢献してきた。

【木更津本町商店街（振）の概要と梶純造氏の横顔】

木更津は江戸時代から房総でも指折りの交通の要衝で、戦前は軍の拠点、戦後は新日鉄の町として栄えてきたところ。

木更津本町商店街振興組合は、木更津駅周辺に大型店の進出が続いていた昭和45年に、木更津市では第1号の商店街振興組合として

設立された。現在木更津駅周辺には5つの振興組合がある。

昭和30年代から40年代にかけて街の中心商店街として繁栄していた本町商店街も、市役所や会議所の移転、百貨店やスーパーマーケットの撤退が相次いだのと、後継者難等で閉店する店舗も出てきて、駅周辺の商業立地が空洞化して、本町商店街には最寄品を扱う店が無くなってしまった。

そこで、平成14年10月には車に乗れないお年寄りに的を絞った、



「はまだや」振興組合や市商連の事務局もここにある

■千葉県商店街連合会

所在地	千葉市中央区千葉港4-2 千葉県中小企業団体中央会内
代表者	渡辺 祥
会員数	14（構成員12,322）

■木更津本町商店街（振）

所在地	木更津市中央2-1-18
代表者	梶 純造
会員数	23名（出資金274万円）

野菜や惣菜等の最寄品を扱う手づくりのスーパー「ふれあいプラザ本町」を振興組合自らが開設した。その後、ディスプレイ施設やリサイクルショップの誘致など商店街活性化策を打ち出している。

梶純造氏は大学を卒業と同時に家業の浜田屋呉服店に就職。現在はその代表社員。

モットーなどというのは余り好きではなく、日々、家業と商店街活動に邁進しているそう。愛読書や趣味をお伺いしたところ商業や商店街関係の書物。一時はゴルフなんかも始めてみたが、時間が取れないで止めてしまったとのこと。それも当然で今梶さんが引き受けている役職は数え切れないほど。商業関係だけでも主なものを

挙げると、木更津本町商店街振興組合理事長をはじめ、木更津商業（協）理事長、木更津市商店会連合会会長、千葉県商店街連合会副会長、千葉県商店街振興組合連合会副理事長、全国商店街振興組合連合会理事等の多くの要職を歴任。地元商店街はもとより全国の商店街の活性化に寄与してきた。このことが認められて、これまで千葉県知事表彰や経済産業大臣表彰等多くの賞を受賞している。

家族は奥様と、東京のファットシオン関係で働いているご長男と木更津に在住。昭和11年6月木更津生まれ。



木更津本町商店街



道の駅を街中に実現した「ふれあいプラザ本町」